

令和8年度 学校関係者評価委員会

令和7年度 自己点検・自己評価結果 並びに 教育の実施報告について、以下のとおり意見交換を行いましたので報告します。なお、「意見の概要」は委員から、また、「考え方や対応」は高等看護学院が行っています。

I. 教育課程・教育活動の充実について

1. 入学前学習・eラーニングの導入について

【意見の概要】

奨学金面接の際、学生から入学前にeラーニング課題に取り組んでいるとの話があった。どのような内容で実施しているのか。

【考え方や対応】

本学院では、合格発表から入学までの期間において学習習慣を維持し、円滑な学習への移行を図ることを目的として、入学前学習にeラーニングを導入している。導入から2年が経過し、教員が個々の学生の学習状況や進捗状況を把握できることから、入学後の学習支援にも活用している。また、高等学校からも、入学前の学習習慣の維持や学習状況の把握に対するニーズがあると聞いており、入学前教育の充実につながる取組として継続している。

2. 実習期間の短縮と実習支援について

【意見の概要①】

実習における要支援学生の増加については、実習期間の短縮だけでなく、他の要因も影響しているのではないか。

【考え方や対応】

要支援学生が増加している要因の一つとして、2年次から開始される受持ち患者を対象とした実習において、学生の責任感や主体性、看護者としての自覚に関する課題が明らかになることが挙げられる。

1年次の実習では看護師の看護活動の見学が中心であるのに対し、2年次以降は受持ち患者に必要な看護を自ら考え、実践することが求められる。そのため、患者を理解しようとする姿勢や主体的に学習に取り組む力が必要となり、学生個々の課題が顕在化しやすい状況となる。

また、入学する学生の背景が多様化していることに伴い、実習に向けて心身の状態を整えるためのセルフケア能力に課題を抱える学生も増加しており、個別的な支援を必要とするケースが増えている。

【意見の概要②】

他の看護師養成所では、実習目標の達成状況が十分でない場合、評価が不可でなくとも振り返り学習を実施している例がある。

【考え方や対応】

本学院では、実習期間の短縮に伴い、リフレクションの時間を確保することで、臨地実習で得た体験の意味づけや学びの深化を図っている。

また、実習において課題が見られた学生に対しては、個々の課題を整理したうえで、その学生に応じた支援を行っている。患者理解の深化や、患者の前に立つ看護師としての責任の自覚につながるよう、継続的な指導・支援を実施している。

II. 学習への適応促進

- ・ デジタルツールの活用と学習支援について

【意見の概要】

デジタルツールを活用した学習は現代の学生にとって一般的な学習方法となっている一方で、答えを得ることが優先され、自ら考える過程が十分に育まれない状況も見受けられる。看護専門職として必要な根拠に基づく思考力の育成に難しさを感じる。

【考え方や対応】

eラーニングの導入により、学生は検索機能を活用して必要な学習内容に容易にアクセスできるようになり、教科書や学習教材に触れる機会は増加していると考えている。

一方で、効率的に情報へ到達できる環境であるからこそ、知識を得る過程や思考のプロセスを丁寧にたどることの重要性が高まっている。そのため、本学院では単に情報を検索して活用するだけでなく、なぜその看護が必要なのかという根拠や、対象者の状況をどのように判断したのかといった思考過程を重視した指導を行っている。

また、生成AIをはじめとするデジタルツールについても、得られた情報をそのまま受け入れるのではなく、内容を吟味しながら活用する姿勢を育成するとともに、看護専門職として主体的に考え判断する力の向上につながるよう支援していく。

III. 学生相談・学生指導の充実

- ・ メンタルヘルス・セルフケア支援について

【意見の概要①】

18歳人口の減少や看護職を志望する学生数の減少、学力層の多様化が進む中で、学生をどのように育成していくかが課題となっている。また、実習を前に強い緊張や不安を抱え、「失敗してはいけない」と考える学生も増えているように感じる。

【考え方や対応】

学生が自身の状況や課題を理解し、適切に対処できるようになることで成長につながると考えている。一方で、自身の心身の状態や課題を客観的に捉えることが難しい学生もいることから、教員は実習中の休憩時間を含めた日常的な様子の把握に努め、継続的な支援を行っている。

また、学生の背景や抱える課題が多様化する中で、個々の状況に応じた支援の必要性は高まっていると認識している。

【意見の概要②】

臨床現場では看護師としての成長速度には個人差があることを前提とし、一人ひとりの適性或成長過程に寄り添った支援が重要である。また、看護職として長く働き続けるためには、ストレスマネジメント教育や相談体制の整備など、メンタルヘルス支援の充実も必要である。

【考え方や対応】

本学院では、学生一人ひとりの状況を把握し、心理的負担の軽減に努めている。必要に応じて保護者との情報共有や目標の確認を行うとともに、早期の面談や相談支援につなげている。

また、学生自身が心身の状態を把握し、適切な対処行動を選択できるセルフケア能力を身につけられるよう支援している。その際、教職員による支援と学生自身の主体的な成長とのバランスを大切にしながら、自立した看護専門職として必要な力を育成していく。